

障害者を対象とした行動的 QOL 向上支援及びその中にある創造的芸術活動の 活用に関する文献検討—アウトカムモデルを通じて—

Literature research on improving Behavioral QOL to people with disabilities and Creative arts activities

Focus on Outcome model

謝雪こう 中鹿直樹

Setsuko.Sha Naoki.Nakashika

立命館大学大学院 人間科学研究科

Graduate School of Human Science Ritsumeikan University

Key words:行動的 QOL、創造的芸術活動、アウトカムモデル

目的

本研究は障害者を対象とした行動的 QOL 向上支援の文献をアウトカムモデルを通して検討し、行動的 QOL 向上支援の現状と問題点を取り上げ、支援中における創造的芸術活動の活用について考察することを目的としている。

また、この研究は創造的芸術活動が障害者行動的 QOL の向上支援セッションの構成や行い方に関する研究の基礎データとして、将来は障害者創造的芸術活動の研究や障害者の行動的 QOL の研究に寄与できると思われる。

(本研究では「創造的芸術活動」は先行研究文献、三省堂国語辞典、文化庁や大阪芸術活動振興事業条例を参照し、「音楽、演劇、舞踊、芸能、美術、写真、書道、陶芸、工芸、インスタレーション、メディアアート、映画などを含み、非営利で本人の趣味としてオリジナル創作活動や再創作活動」と定義する)

方法

文献検索方法は、CiNii Articles 国立情報学研究所、立命館人間科学研究雑誌、Google Scholar など論文検索ツールと専門誌を中心として論文を検索した。

結果としては、CiNii Articles 国立情報学研究所で 20 件、立命館人間科学研究雑誌で 10 件、Google Scholar、他は 4 件であったが、重複、レビューや総説などを除き分析対象文献は 9 件となっている。

アウトカムモデルを通して文献を分析する。分析結果をアウトカムモデル表をもってまとめる。

結果と考察

アウトカムモデルの分析結果によって、研究対象者の中で、知的障害、精神障害を抱えている者が多く、自己決定と自己表出が困難という現状があると分かった。対象者は福祉施設の利用者や特別支援学校の生徒のため、研究実施者は福祉施設の関係者が多く、実施場所も福祉施設が多かった。セッティングは、正の強化を受けられるように、新しい道具の提供、声かけを通してコミュニケーションが多かった。

その中で、創造的芸術活動は子供対象のセッションの中でよく見られる。特徴としては、対象児が行いやすく、負担が相対的に少ない 描画、写真撮影、塗り絵などが挙げられている。

また、成人障害者を対象とした創造芸術活動を用いたセッションは本研究の中で見当たらなかった。その原因は対象者の能力や支援者の状況(時間や周りの環境など)と思われる。

実際、介護福祉施設では利用者の創造的芸術活動に関する先行研究は多く見られるが、使用される理由としては気持ち転換やセッションであった。創造的芸術活動を強化し、本人が自ら気持ちや要求表出し、周りとのコミュニケーションを増やすことをデータとして残し、利用者の特性によって創造的芸術活動をプランニングしていくことはこれからの研究の課題と思われる。

参考文献

- 1.兼子 一 (2017). エンパワメント型アートセラピーの構成要件の解明と評価基準の開発 2015-2017JSPS 科 研費挑戦的萌芽研究
- 2.川田 都樹子・西 欣也 (2012). アートセラピーの現状と課題 アンケートとインタビューから 甲南大学人間科学研究科調査報告書 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成事業
- 3.松下 光穂・谷口泰司 (2010). 福祉的就労の現状と課題に関する一考察 社会福祉学部研究紀要. 14 (1). 93-101
- 4.松山 郁夫 (2012). 障害者支援施設における自閉症者に対する余暇支援の有効性—生活支援員に対する質問紙調査— 佐賀大学文化教育学部研究論文集.16 (2), 123-132
- 5.望月 昭 (2001). 行動的 QOL : 「行動的健康」プロアクティブな援助 行動医学研究 Vol.7.No.1